洛友會報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気系教室内
洛友会

向暑の砌、会員各位の御健康をお祈り申し上げます。

洛友会会長　松田長三郎

□　前号にも申し上げましたことでありますが、私共の人生行路は長いのでありますから、ゆっくりと急ぎましょう。"Festina Lente"（フェスティナ・レンテ）この心掛けで行きたいものです。人は誰れでも、時あって、免角、怠慢の気差しが起って来ることがありましょうが、こんな時、思い直して気分を引き締めて行くことが、大切と思はれます。芸事では、よく「初心忘るべからず」と云はれていますが、このことは、どの方面でも大切なことでしょう。

□　世界における経済大国としての我国の地位は確固たるものになって、世界の期待も大きくなって来ましたことは、ご同慶の至りでありますが、それに応えねばなりますまい。世界に雄飛することなどは、数十年前でありましたら、一場の夢に過ぎなかったでありましょうが、今では、その実力は、勤勉誠実な国民性のお蔭で、私共の知らないうちに、いつの間にか、世界一に、のし上って来た点も数多くなって来たことは、誇らしいことでありますと共に、一層、誠実謙虚に、世界の賞讃と尊敬を得るように、心掛けたいものです。

□　日進月歩の科学技術の世界では、停滞は退歩であり、新らしい境地の開拓に向って、前進又前進でなければなりません。私は殆んど毎日、百万遍を通りますが、この一角に、天下の英材、此處に集まると思ふことは、大変誇らしくも嬉しいことであります。

□　重ねて、会員各位のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

橋本眞吉君を弔う

大正十四年卒　富永和郎

この冬の寒さは長く、酷しかった。滅多に雪の降らない東京でも六度許降り、夜が冷えるものだからそれが凍結して中々融けない。老年には受難の冬ともいえよう。二月初旬に橋本君が風邪で日立病院に入院してるという話を、駒井さんから聞いた。憂色を湛えた話しぶりだった。それから一週間も経たぬうちに、橋本君は肺炎で急逝したのだった。

私達、大正14年卒業生と次の年15年の卒業生とで、十四日会という同窓会をつくって、毎年1回、2泊3日の夫人同伴の旅行を愉しみ、その回数は20有余回になった。年と共に人数が減ることはどうにもならないことながら、大変淋しい想がするのを禁じ難い。橋本君のような出席熱心な有力会員の場合は尚更である。

昭和三〇年に、重電機生産性チームが編成せられて、所謂重電6社から壮年の代表者が出て、約3週間の予定で渡米することになった。このチームの特色は各社の労働組合からの代表者が、夫々一名宛加わったことである。全く偶然だったが、日立から橋本君、安川電機から私。かっての同級生が一行の中にいたのはやや珍らしいケースかも知れなかった。大分旧聞になるが、この後の憶い出を少し書いてみたいと思う。

太平洋戦争が終って約10年、いわゆる「昨日の敵は今日の友」というわけで、工業の生産性全体に就て門戸を解放して、存分に見せてやろう、教えてやろうというのだから、驚くべき寛大さといわねばなるまい。吾々はそんなことを深く考える暇もなく勇躍して出掛けたのであった。勿論戦争とその前後で、中断していたので、殆んど全部のメンバーは初めての渡米だった。訪米のテーマは、その当時漸くやかましくなりかけていた産業全般のオートメーションだった。しかし方々の会社や工場を見学して極めて丁重な扱いを受けたが、肝心のオートメーションについては、どこでもピンとくるものがなく、精々メカニゼーションかそれに少し毛の生えたような自動化位の所で、本題について画期的な理論や実物を見聞することを期待していた吾々は些か失望したのであった。つまりそんなオートメーションのはしりの時期だったわけである。

しかし、一方吾々は米国の巨大な産業に接して、文字通り瞠目して、敗戦国の吾々の工業は今後一体どうなっていくのだろうかと些か心細くなったのも事実であった。

橋本君は元来、中々の論客であり、見学の結果に就ても一家言を持っていたものと思われるが、何しろいわば呉越同舟の見学団のせいもあったが、談論風発の態でもなかったようだ、唯こんなことをいったのを今でも忘れることが出来ない。或る日米国のどこかの海水浴場の砂浜を散歩していたら、屈強の壮年の男が足元の砂をじっと見詰めながら行きつ戻りつしている。不思議に思って、何をしているんだ、ときいてみたら、いや砂の中にダイヤの指輪か何か宝石類が落ちていないか。それを拾おうと思ってこうして歩いているんだという。アメリカにはこんな程度の阿呆しかいないのかと呆れたのだが、よく考え直してみると、こんな衆愚の中の要所要所には勝れた人物が配されていて、この為に戦争も強ければ産業にも強いのだ。と悟ったというのである。私もこれには、甚だ同感で以後アメリカ観察の一つの指針にしているのである。次に旅行中印象に残る

ことを二、三書いて橋本君を偲びたいと思う。

ボストンではMITを訪れた。丁度その頃京大の電気工学教室から林千博先生が新進の交換教授（？）として滞在中だったので非常に便宜を計って戴いたことは、今でも忘れ難い。丁度電算機の勃興期で、そのコンピュータルームを見てゆけとのことで、一同大いに張り切ったのだが、合憎その日は日曜だったので、果して見学出来るかどうか危んだのだが、林先生は訳なくその室の鍵を借りて来て自由に見せて貰った。三十坪許りの二階の室には、ぎっしりと真空管を取りつけたパネルが所狭しと許り詰っている。半導体などというものは、無いに等しい時代だった訳である。下の室には小さい大砲が据っていた。軍の依託で大砲のコンピュータコントロールの実験をやっているものと分った。現今の半導体による電算機に想を致せば文字通り隔世の感がある。

尚、序ながら、MITのキャンパスには、一つの感銘深い小さなチャッペルがあった。その内部は電灯は勿論、人工的な照明が一切使われていない空間なのである。ただ建物の周囲に巡らした側溝に湛えられた、静止した水から反射する陽光が適当に堂内に入るように工夫されている。水が自然にゆらゆらと揺れ動くにつれて、堂の中には幽かな明暗が音もなく拡がって夢幻の境地を現出するのである。熱心なクリスチャンだった橋本君は、余程感銘深かったとみえて、こんな所で一度お祈をしてみたいと呟やいていたのであった。

ボストンのホテル（名前は忘れた）の広間には、中央にメリーゴーラウンド形式の円形の客席のあるバーがあり、椅子に坐って呑んでるとそれがゆっくり廻る仕掛けになって、固定した内部にバーテンダーが二三人いてサービスするかなり大型のもので、優に三〇人くらい坐れる。いわば動くサーキュラー・バアといったものが一つあった。橋本君は酒は呑まなかった、いや呑めなかったが、歓談には加わった。酒といえば、一行中の会社側には呑めるメンバーが少なくて、三菱の小野副社長と私だけが夕方になると、おい一杯やろうかというわけで、何故が酒のサービスのなかったホテル――禁酒時代ではなかったのに――を抜け出して憂を晴らしたものだった。私のことを橋本君が、戯れにフロアマネージャーと呼んで、レストラン探しをさせたことも懐かしい思い出である。一行は何しろ堅物（かたぶつ）揃いで、何とか美味いものを探して食事をしようというようなことには関心が薄く、その点食いしん坊で呑み助の私を、多少の椰揄をこめてこう叫んだわけだろう。食べ物は噂に違わず確かに量は多いが、まずかった。イタリー料理が無難だろうというので私の主唱で解散会はイタリアンレストランでやったのを憶えている。これは橋本君も気に入ったようで流石だといって賞めて呉れた。

洛友会創立の思い出

大正十五年卒　小宮　義和

「洛友会創立三十年」を頂いて今日まで大勢の方々の犠牲的な御奉仕によって、この盛大に達したことが深く印象ずけられて、心から深く感謝の意を表します。

その盛大を見るにつけても、洛友会の基礎となった「洛友会会員名簿」を残して下さった故関野弥三氏に対して、大きい感謝の気持を捧げたいと思って、会報一二五号（昭58・10・25）に拙文を寄稿致しましたが、その後古い手紙やメモのような日記を整理している中に創立前後の様子が麗気に想像出来る資料を発見致しました。

昭和二十七年九月十三日、当時毎月開いていた大阪堂島の電気倶楽部の例会（当時は大正十四・五年の在阪卒業生が会員でした）に故加藤信義先生が特別に御出席になり、「昔の『電気教室懇話会』の後身のような卒業生全体の会を作りたい」というお話がありました。これは以前にも書きましたように、当時社会的に一番有力に活動していられた大正七年組を中心に、その前後の方々の熱心な発案でありました。

それから二週間後、九月二十九日に加藤先生が態々私の事務所に御来訪になり、私の関係している十四日会の諸君も大いに協力してもらいたいと御希望になりました。

私は十四日会の有力な方々数人の御意向を伺って、十月二日に電気教室に加藤先生をお訪ね致しましたが、生憎お留守で、故阿部清先生に、十四日会の諸君も同窓会創立にお役に立ちたい旨を申上げました。

そこで十月十四日夕、大阪電気倶楽部で創立準備の有志懇談会が開かれました。その出席者（順序不同、敬称略）は次の三十一名だったと、私の日記に記されています。（間違があるかも知れません）

石川芳次郎、石沢四郎、岡本　赳、松田長三郎、七里義雄、加藤信義、阿部　清、佐藤一男、工藤寿男、林堅太郎、今田英作、芦原義重、奥谷久彦、廉田　茂、小宮義和、内田幸夫、林　重憲、熊谷三郎、上林　明、森　薫、加藤博見、井上　某、清野　武、西原　宏、川口龍夫、西村正太郎、瀧山　敬、板倉清保、廣田　通、米田　某、竹屋芳夫氏代理永見氏

此の会合でどのような議論が出たかという詳しいことは、私の日記に残されて居りませんが、十月下旬に京都で創立総会が開かれることが、此の準備会できまったと思います。

出席者の中に大勢の電気倶楽部の会員が居たので、此の時の会合費は恐らく然るべく分担したと思います。処が京都で開く創立総会の会場は、京大楽友会館ということになり、その費用は約三万円という事になりました。

私は芦原義重氏の御指示を仰いで、この費用を大阪方で七、京都方で三の割合で有志の方に負担して頂くこととし、大阪では小林愛三氏、工藤寿男氏、今田英作氏、

どうも憶出と惜別の情抑え難く思わず長くなってしまった。橋本さんの日立の副社長また日立建機の社長、つまり公人としての輝やかしい業績に就て述べる著名な同僚、友人は、いくらでもおられることだろうから、私は茲では、約三十年も前に行を共にしたアメリカ旅行に就て懐かしい憶い出を誌してみた。

芦原義重氏、岐美忠雄氏、森薫氏及び小宮を予定してお願致し、京都は石川芳次郎氏に手紙でお願しました。

此の間古い手数を整理していたら、石川芳次郎氏から「京都で九千円は引受けた。芦原義重氏に宜しく」という十月二十日附の手紙が出て来ましたので、それから日記を探して、当時の事がわかって来た次第です。

このお手紙を頂くのと前後して十月二十一日午後、林重憲氏が私の事務所に来られて、「此の間の創立準備会には若い先生方も大勢出席して頂いたが、同窓会の事務所は是非教室の外に置くように皆さんで応援して貰いたい。この件は石川芳次郎氏も加藤先生も御賛成して下さった」とお話になりました。更に「学部の卒業生の会と講習所の卒業生の会とは、別にして二本建てにすべきだという意見が強い」というお話を承りました。併し私は「学部卒業の方々の輝かしい業績の蔭には、その助手として縁の下の力持ちの働きをなさった講習所出身の方々も少くなく、そういう人材を養うために青柳先生が講習所を創立されたのだから、二本立てが果して鳥養先生、石川芳次郎氏、関野弥三氏らの御賛成が得られるかどうか」と疑問に思いました。

一ヶ月後の昭和二十七年十一月二十三日に京大楽友会館で「洛友会」の創立総会が開催され、約五、六十人の出席で、現在の名簿の九頁にある洛友会会則（その後教室組織の変更で八回修正された）が可決されました。そして初代会長に鳥養先生、事務局は応用科学研究所に置き、山村忠行氏が洛友会の事務を見て下さることが決定しました。恐らくその詳細議事録は事務局に残っていると思います。

この決定に対しては鳥養先生の御英断と、山村忠行氏の御苦労とを深く感謝して居ります。

電気工学講習所卒業の方々もこの時、洛友会に合同することがきめられました。

青柳栄司先生が御創立になった木造の講習所は私が大学に入った大正十二年には、電気教室の玄関前の道を距てて一米許り低い処に建っていました。私が大正十五年に卒業した後に情報工学教室の辺に移されたそうで、昭和五十九年三月、情報工学教室の北西角に、講習所跡の石碑が建てられ、青柳先生が講習所の方々の為に揮毫された「三美具（さんびそなわる）」（大正十五年御揮毫）もその一面に彫られたと森芳郎氏（大14講習所御出身）から承りました。

昭和七年頃、講習所は大学構内から立退きを命じられた時の移転先として旧府立一中の跡地（現左京電話局、錦林中学校辺）を購入する計画を立てられたそうですが、第二次大戦で多量の技術者養成の要望から、日満高等工科学校として立命館大学に引継がれることになり、それが戦後立命館大学理工学部になったと聞いて居ります。何れにしても講習所卒業の方々は電気工学教室の弟分として、青柳栄司先生、鳥養利三郎先生、関野弥三先生がお育てになったので、鳥養先生も「二本建て」になさらず、一元化された御深意があったと想像されます。　以上

（追記）現在の若い方は石川芳次郎氏に就いて御存知の方は少いと思いますが、故小木虎次郎先生にその篤学を認められて、御勉強なさった方と承っています、早くから「照明工学」で東京方面にも有名な方で、照明学会創立以前、電気学会の照明部門で御活躍になっていました。私の存じ上げた頃にはアインシュタインを思わせる風貌でした。私が遠方に勤務する事を母が好まなかったので、私は面識もありませんでしたが、石川様が副社長兼技師長をして居られた京都電灯に、石川様を御訪ねして、私を雇って頂けないかとお伺したことがありました。併し「今年は採らない」というお話で私は日立に応募しました。私の卒業した翌年、鵜飼二郎君や久保幸左衛門君（中学同窓、早大出）が入社されました。夢のように思出されます。京大卒業と同時に、中村楼で学士会の歓迎会があり、その二次会に石川様は私と、も一人を連れて行って、前途を励まして下さいました。その後京都電灯・京都市電合併の難局で、前社長山本和七氏の後を受けて御苦労なされました。戦争中には京都発明協会のお仕事をして居られ、資材入手難で、故村井貞三氏（講習所大4卒）を御派遣になり、協力を御要望になったこともありました。京都電灯は後には関西配電に吸収合併、洛友会創立当時は関西電力京都支社で相談役のような御仕事でなかったかと思います。この間私の属するクラブに石川芳夫という方が入って来られ、お伺いしたら御三男で、大層懐しく思いました。

（59・6・23）

電気系教室だより

近藤文治・池上淳一両先生 退官記念パーティ

さる五月二十日、近藤文治・池上淳一両先生の退官記念パーティが京都ホテル松の間にて開催された。当日は大安吉日の日曜日ということで、パーティ受付前のロビーにも、結婚式に出席する御婦人方の姿が多く、開会前から非常に賑やいだ雰囲気であった。パーティは正午より始まり、近藤先生・池上先生夫妻の御入場のあと、退官記念会実行委員長高木俊宜教授の挨拶に続いて、工学部長近藤良夫教授の御祝辞があった。さらに東京大学から猪瀬博教授、大阪大学から滑川敏彦教授をお迎えして両先生の御人柄や学会での御活躍の様子など興味深い御話を頂戴した。両先生への花束贈呈が終るとすぐに、松田長三郎名誉教授の御発声にて乾杯し、祝宴に入った。

参会者は、名誉教授の先生方七名を含め、総数約二百五十名にもなり、近藤・池上両先生もあいさつに回りきれない程の盛会であった。先生方を囲んで研究室出身者が記念撮影するなど、始終なごやかな雰囲気の中で宴が進められた。歓談も一通り終った二時過よ

り、両先生の御友人である上之園親佐名誉教授より、「人生これからなり」という祝辞をいただいた。また、門下生を代表して、安藤和昭筑波大学教授、小倉久直京都工芸繊維大学教授が、両先生の思い出話などを披露された。最後に記念品の贈呈、両先生からの御礼の言葉があって、午後三時前に閉会した。

教官の異動

前号のお知らせ以降、次のような異動がありました。

粟井　郁雄　昭和59年4月15日、電子工学教室（旧池上淳一研）助手を退職（昭和38年電子工学科卒）

石川　順三　昭和59年6月1日、電子工学教室（高木研）講師より同助教授に昇任（昭和43年電子工学科卒）

総会だより

昭和59年度洛友会総会

昭和59年度洛友会総会は、去る6月9日（土）京都新ミヤコホテル〝深草の間〟において午後3時30分より行われた。

昭和58年度収支決算
昭和58年4月1日から昭和59年3月31日まで

収入の部　（単位　円）

科目	決算額	予算額
会費	6,617,100	6,550,000
〃（講習所）	533,600	560,000
預金利子	324,891	350,000
広告掲載料	2,488,000	2,400,000
雑収入	78,000	10,000
収入計	10,041,591	9,870,000
前年度繰越金	7,099,210	7,099,210
合計	17,140,801	16,699,210

支出の部

科目	決算額	予算額
名簿編集費	14,100	15,000
〃 計算機処理費	174,700	200,000
〃 印刷費	3,272,500	3,200,000
〃 発送費	1,267,300	1,100,000
会報編集費	0	10,000
〃 印刷費	744,800	700,000
〃 発送費	1,227,560	1,250,000
備品費	0	0
通信費	45,340	150,000
会合費	357,880	350,000
総会費	300,000	300,000
集金費	240,940	250,000
消耗品費	58,440	80,000
応研謝礼	720,000	720,000
旅費	286,600	500,000
懇話会補助	200,000	200,000
支部交付金	0	0
雑費	0	20,000
予備費	0	780,000
特別損失	1,069,547	0
支出小計	9,979,707	9,825,000
次年度繰越金	7,161,094	7,144,210
合計	17,140,801	16,969,210

預金及び現金
昭和59年3月31日現在（含未払金1,457,760円）

信託預金	1,000,000	普通預金	2,234,844
定期預金	5,147,139	郵便振替	190,570
当座預金	241	現金	46,060
		合計	8,618,854

昭和59年度収支予算
昭和59年4月1日から昭和60年3月31日まで

収入の部　（単位　円）

科目	予算額	58年度決算額
会費（学部）	6,600,000	6,617,100
〃（講習所）	530,000	533,600
預金利子	300,000	324,891
広告掲載料	120,000	2,488,000
雑収入	10,000	78,000
小計	7,560,000	10,041,591
前年度繰越金	7,161,094	7,099,210
合計	14,721,094	17,140,801

支出の部

科目	予算額	58年度決算額
名簿編集費	15,000	14,100
〃 電算機処理費	815,000	174,700
〃 印刷費	0	3,272,500
〃 発送費	0	1,267,300
会報編集費	10,000	0
〃 印刷費	750,000	744,800
〃 発送費	1,250,000	1,227,560
備品費	0	0
通信費	60,000	45,340
会合費	360,000	357,880
総会費	300,000	300,000
集金費	250,000	240,940
消耗費	79,000	58,440
旅費	300,000	286,600
懇話会補助費	200,000	200,000
支部交付金	2,431,000	0
事務人件費	720,000	720,000
雑費	20,000	0
特別損失	0	1,069,547
支出小計	7,560,000	9,979,707
次年度繰越金	7,161,094	7,161,094
合計	14,721,094	17,140,801

各支部交付金　（単位　円）

支部	交付金	支部	交付金
北海道	7,000	関西	790,900
東北	12,500	中国	180,500
東京	1,150,100	四国	117,100
中部	102,900	九州	47,000
北陸	23,000	合計	2,431,000

まず、山口幹事司会のもとに、松田会長の挨拶に引続き、近藤幹事より昭和58年度事業報告及び59年度事業予定、洛友会創立30周年記念事業報告並びに役員改選選出案件について説明があり、これに続いて山口幹事より昭和58年度収支決算報告、59年度収支予算案の提示及び昭和58年度広告募集状況の報告並びに59年度各支部交付金について各案件の説明があり、それぞれ審議の結果、原案どおり可決されました。（58年度収支決算、59年度収支予算、58年度広告募集状況、59年度各支部交付金、30周年記念事業経理報告は別表参照のこと）引続き、板谷教授から電気系教室の近況が報告されました。

洛友会役員変更について

前回発行しました名簿に記載されております洛友会役員中、左記のとおり幹事以上の役員が六月九日の本部総会において退任及び新任が承認されました。

記

新任　副会長　高木俊宜　昭22
　　常任幹事　池上文夫　昭22
　　〃　　竹村　清　講13
　　幹　　事　板谷良平　昭28
退任　　池上淳一　昭18
　　木村磐根　昭30

関西支部総会開催される

恒例の関西支部総会が新緑の古都、新都ホテルで開催された。

外人旅行客で賑わうホテルロビーからラセン階段で地階に降り立つと、総会当日の六月九日(土)が友引ということもあって、振袖姿のお嬢さんも多くここも賑わっていた。

しかし総会会場の「深草の間」はそうした結婚披露宴場からは離れた所にあり、落ち着いた雰囲気の中、定刻の15時に関西支部総会が開催された。

まず濱口支部長（20年卒）から「いつの時代にも電気工学の役割は大きい。今後も各分野で活躍されておられる会員諸氏の相互交流に役立つよう諸企画をやっていきたい」とのご挨拶があった。

続いて潮崎幹事（33年卒）から、58年度の報告と59年度の計画が提案了承された。広告収入が商法改正と経費節減の影響でおもわしくなく、一方で30周年ということで、総会、家族見学会を豪華版としたため、支部補助が大幅に増加し、予備費を30万円程取崩すこととなった。また将棋・麻雀の会が参加希望者が少なく中止となったとのことである。今年度のゴルフの会の計画についても、洛友会会報にご案内を掲載し、より活発な活動に資することとなった。

関西支部総会に引き続き本部総会が行なわれた。総会がとどこおりなく終了し、16時30分からは一階のレストランくるみに場所を変えて懇親会となった。レストランくるみを貸切り、目の下二尺はあろうかと思われる鮒も並んだ豪華な立食パーティが始まった。立食パーティ形式にするのは昭和27年洛友会発会時に当時の鳥養会長のご発案によるものとのことである。

宴は松田会長のご発声により乾杯、そして自由歓談となった。美酒もたっぷり、舌もなめらかになった頃、大谷副会長、池上前副会長、そして最長老の立石亨三氏、また若手からは住友電工の北井氏（44年卒）、関電の渡辺氏（55年卒）さらには松下電産の八木氏（33年卒）、奥方同伴の電々公社

昭和58年度名簿広告募集状況　（単位　円）

支部名	件数	総額	本部収入額	支部収入額
東京	107	3,820,000	1,528,000	2,292,000
関西	49	1,690,000	695,000	995,000
中国	19	590,000	145,000	445,000
中部	2	60,000	0	60,000
九州	1	30,000	0	30,000
四国	7	260,000	0	260,000
計	185	6,450,000	2,368,000	4,082,000
56年度	213	7,460,000	2,782,000	4,678,000

謹賀新年広告募集状況　（単位　円）

支部名	件数	総額	本部収入額	支部収入額
関西	12	120,000	60,000	60,000
四国	1	10,000	0	10,000
北陸	2	20,000	0	20,000
本部	6	60,000	60,000	0
計	21	210,000	120,000	90,000
57年度	22	220,000	120,000	100,000

記念事業経理報告

収入の部　（単位　円）　59.3.31 現在

項目	金額	人員	備考
学部	3,978,400	1,302	芳名録参照
講習所	765,700	166	洛友デルタ会を含む
合計	4,744,100	1,468	
当初予算	7,000,000	2,500	

支出の部

項目	予算	決算	備考
記念講演会	100,000	50,000	
創立30年史	1,000,000	988,000	全額未払
電算化費用	4,100,000	3,611,401	
(京都電算機)	(3,100,000)	(2,858,808)	内 89,000 未払
(人件費)	(1,000,000)	(752,593)	
事務費	800,000	1,164,246	内 380,760 未払
洛友会繰入	1,000,000	0	
合計	7,000,000	5,813,647	未払合計1,457,760

〔注〕未払金は，59・5・24日総て支払を終った。
不足金額の処理方法　5,813,647−4,744,100=1,069,547 は洛友会基金より補塡し、特別損失として計上する。以上で30周年記念事業は総て完了した。なお，爾後の醵金に関しては洛友会雑収入とさせていただきます。

の脇阪氏（38年卒）とバラエティに富んだスピーチが続いた。

宴も盛り上がり名残りはつきぬが、予定の時刻となり松田会長、日新電機の西台氏（32年卒）のリードで洛友会（同窓会）の歌を合唱しお開きとなった。

料理も美味で、ひさしぶりの会合に話もはずみ、そのまま別れ難たい会員諸氏、三々五々と夕闇せまるなつかしの京洛中に繰り出していった。

名残りはつきしさらば友
進み行く世は新らしき
技術を樹つべくもろともに
また会う日まで強く生きなん
（作詞作曲　松田長三郎
洛友会の歌より）

東京支部総会

昭和59年度洛友会東京支部総会、懇親会は、去る6月23日、東京港区の八芳園で例年どうり開催された。

総会は、本部よりご出席の松田会長および高木俊宜教授をはじめ98名が参加し盛会であった。

15時30分より小田支部長のあいさつで始められ、58年度の行事報告及び決算報告が行われ、満場一致で承認された。次いで、新役員の選出に移り、評議員会で推せんされた次のメンバーが承認された。

支部長　木村小一（昭19卒）
副支部長　老田他四郎（昭20卒）
総務幹事　松本慎二（昭40卒）
会計幹事　来山征士（昭42卒）

木村新支部長のあいさつの後、59年度行事計画並びに予算についての説明があり、満場一致で承認された。

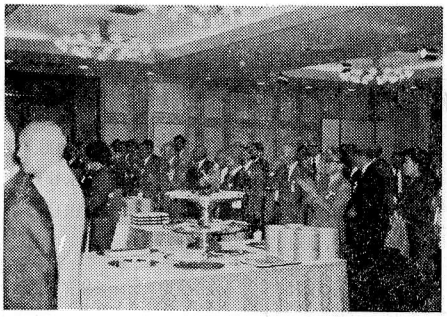
ここで、松田会長からの来賓あいさつがあり、例年どうりのかくしゃくたるお元気な姿で、洛友会の最近の活動状況について話された。

次いで、本年米寿、喜寿を迎えられた次に示す先輩の方々のうち総会に出席された六名の方に、支部長より、羽根ぶとん（米寿）、羊毛はだかけ毛布（喜寿）の目録が贈呈された。（欠席者には後日郵送された。）

米寿　尾崎坊義信氏（大14卒）
喜寿　占部五郎氏（昭5卒）
中谷哲夫氏（昭5卒）
平田憲一氏（昭5卒）
鈴木戯吉氏（昭6卒）
西本憲三氏（昭6卒）
根本一郎氏（昭6卒）
浅井光枝氏（昭7卒）
田村博氏（昭7卒）
蒲生朝郷氏（昭8卒）
吉田寛一氏（講大14卒）
西原俊造氏（講昭2卒）

高木俊宜教授からは教室の近況についてお話があり、約140名の卒業生に対して800社以上の求人があったこと、最新装備の図書館が完成したこと、第2次ベビーブームの影響が今後大学教育にも表われてくること、大学にィオン工学研究施設が完成したこと等を披露された。

今年度の記念講演は郵政省電波研究所の畚野信義氏（昭34卒）により、「宇宙から見た地球」と題して行われた。数多くのスライドを用いて、ランドサットやシーサットから撮影された地球の美しい姿を紹介し、本分野の研究が他分野の学問の進展にも大きく寄与していること、更には、もっと解像度を向上させる合成開口レーダについても、分かり易く説明していただいた。



総会は老田新副支部長のあいさつで締めくくられ、ひきつづいて午後五時三十分より、場所を一階銀嶺の間に移して、懇親会が開催された。

冒頭、木村新支部長のあいさつがあり、つづいて、米寿・喜寿の受彰者を代表して、平田憲一氏よりお礼のスピーチがあった。その後、松田会長のご発声により、乾杯をして、懇談に入った。会員同伴者の夫人・令嬢を混え、老若男女のグループが、あちらこちらに輪をなして、楽しい語いがくりひろげられた。

最後に松田会長作詞作曲の「洛友会同窓会の歌」を、会長自らのリードにより、参加者全員で声高らかに合唱し、名残りを惜しみつつ、19時ごろ散会した。（松本記）

中国支部総会

洛友会中国支部では、五九年度支部総会を五月二三日に、オープンして間もない広島全日空ホテルで開催しました。

本部からは、松田・林（宗）両先生においで頂きました。総会は四十名が一堂に会し、真田支部長のあいさつで始まりました。その中で、支部が発足して以来三一年の永きにわたった支部長の任を、本年の役員改選期に当って、勇退したいとの意を表明されました。続く役員改選の議事では真田氏は顧問に就任されることになり、新支部長には昭和十六年卒の松谷健一郎氏が満場一致で選任されました。

総会議事は、五八年度会計報告と五九年度予算が承認され、本部の状況を松田先生から、教室の状況を林先生からお聞きして、とどこおりなく終りました。

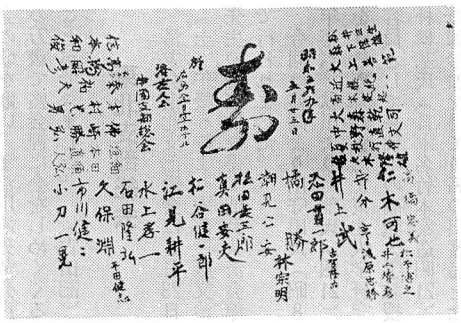
続いて開かれた懇親会では、冒頭、松谷新支部長から真田前支部長へ、永年支部のお世話をしていただいた感謝のことばが述べられ、記念品が贈呈されました。

支部長の音頭による乾杯のあと、懇親の宴に入り、一年振りの再会に、互いに近況や懐旧をまぜて話の花を咲かせました。なお、宴半ばに、林先生から持参の「特

昭和59年度　洛友会中国支部総会・懇親会　5月23日　於広島全日空ホテル

製スライド」で電気教室や大学図書館の近代化ぶりや、先斗町(?)の近況の紹介があり、ユーモアたっぷりの話しぶりに一同大喜びでやんやの喝采でした。

最後は松田先生を囲んで、洛友会の歌の合唱で、盛会のうちに幕を閉じました。



新役員は次のとおり

顧　問　真田　安夫（昭2）
支部長　松谷健一郎（昭16）
評議員　添田貫一郎（昭6）
　　潮見　公安（昭8）
　　天野　宗明（昭10）
　　和久　利保（昭10）
　　井上　武（昭16）
　　江見　耕平（昭17）
　　姫井　豊治（昭19）
　　中村善三郎（昭23）
　　門野内忠幸（昭23）
　　三田　徳平（昭7講）
幹　事　秦　裕夫（昭30）
　　水上　孝一（昭38博）
　　井上　靖彦（昭36）
　　牧　征滋（昭38）
　　細田　順弘（昭40）
　　大上　善範（昭41）
　　中野　直文（昭48）
　　浅原　忠勝（昭51）

（細田記）

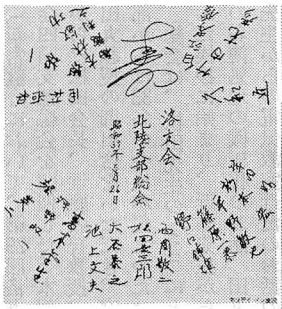
北陸支部総会

さる五月二十六日金沢市「ホリディ・イン金沢」において、昭和五十九年の北陸支部総会を開催した。今年は支部発足後三十周年の節目にあたり、本部より恩師松田会長、池上文夫先生、支部在住の大谷先生の三先生をお迎えし、会員十六名が出席した。会員は、年配の方から二十代まで広い年代の参加を得た。

はじめに、西岡支部長の御挨拶、続いて支部近況報告、会計報告のあと、役員選出となり現役員がそのまま留任となった。松田会長のお話を伺った後、会長の乾杯で懇親会に移った。松田会長は、もうすぐ九十才とは思えないお元気な足どりで皆の感嘆の的であった。

引続き、池上先生より教室の近況説明があり、新しく完成した教室の建物をスライドで御紹介いただいた。昔からの建物の感じをそのまま残すよう工夫され、外壁の色も調和がとれ、立派に完成した建物を見て、教室の益々の隆盛を感じ意を強くした。将来の計画のお話もあり、全体が完成する日が待ち遠しく思われた。

出席会員の近況報告や支部三十年の思い出などをまじえ、有意義な時を過した。



最後に、松田会長自ら「洛友会の歌」を歌われ、楽しかった総会の幕を閉じた。

（久和記）

役　員　顧　問　荒井　武治
　　金井久兵衛
　　支部長　西岡　敬二
　　副支部長　平野　敏也
　　森本　芳夫
　　幹　事　松崎　司郎
　　村本　浩
　　堀　英二
　　久和　進
　　評議員　野口　練雄
　　早東　嘉夫
　　柴田　福夫
　　西村　尚和
　　山本　昭
　　金森　閲治
　　加世田喜作

中部支部総会

六月十六日（土）名鉄グランドホテルで開催しました。本部からは松田会長、また大学からは陪教授がご出席下さいました。

総会は本多支部長の挨拶のあと、まづ、五八年度の事業報告と会計報告が承認されました。つづいて五九年度の事業計画としては九月十五日（土祝）に名古屋市近郊で懇親ゴルフコンペを催すこと、また十月七日（日）に家族同伴の例会として、陶磁器のメッカ瀬戸市を中心とした陶磁器鑑賞会を開催することを決めました。

さて、本年は役員改選の年に当りますが、二十年間の永きに互って支部長をお願いしていた本多静雄氏から米寿を迎える機会にこの際辞任したいという申し出がありました。これに対し出席者数名からご健在でおられる限り名支部長として留任してほしいという強い発言がございましたが、辞意はお固いようでありますので、来春の総会に先だつ役員会で後任支部長を銓衡することとし、それまでは現役員全員が留任することになりました。ただし、副支部長百束極君（東京転出）の後任として伊藤定昌君（昭20）、また庶務幹事坂入武彦君（東京転出）の後任として石川進君（昭26）の選出が決まりました。

その他については特に発言がなかったので以上で総会を閉ぢ、すぐ懇親会に移りました。懇親会はまづ松田先生のユーモア豊かな挨拶に始まり、つづいて安陪先生から大学の近況についてのお話を聞きました。先生は新築の教室や研究室の状況を二冊のアルバムにおさめてこられて、これを一同に回覧して下さいました。このあと田中副支部長の発声で乾杯して、いよいよ本番の懇親ムードに入った次第でした。

まづ、本年の新入会員として出

席された加藤千詞君（中電）・杉山哲也君（中電）・前田登君（日本電装）・山下裕司君（神鋼電機）の四君から力強い挨拶があって一同大拍手をもってこの四君を歓迎しました。このあとは例によって出席者の興味ある自己紹介が延々とつづき、ほんとうに楽しくなつかしい歓談ムードの数時間を過ごしました。

最後は松田先生作詞作曲の洛友会の歌を歌い、また川端先輩発声の万歳で盛会裡に会をしめくくることができました。（古田記）

東北支部総会

洛友会東北支部総会は6月23日（土）午後5時より本部近藤文治先生の御来仙を得て仙台共済会館で行われました。

今回は盛岡より川守田氏（昭8年卒）、秋田より阿部氏（昭21）をはじめ、たまたま東北大学研究容員として来仙中の高麗大学教授朴樫基氏（日本名竹本泰造昭21）の御参加を得て11名の出席者となり東北支部としては久々の2桁出席となりました。

今年は役員改選の年ですので全役員の更送が行われ新に左記の役員が決定致しました。

総会終了後懇親会に移り、近藤先生より母校の状況、朴氏より韓国の近況等話題はつきず時間のたつのも忘れ楽しい一と時を過し午後8時散会致しました。

記

支部長　三国文治郎
副支部長　大家　寛
評議員　鈴木太左衛門、川守田孝、吉阿部鉄郎
幹事　入間田泰、佐藤三代男、山崎貫三、三上謹五、安藤孝野、秋山康人（三上記）

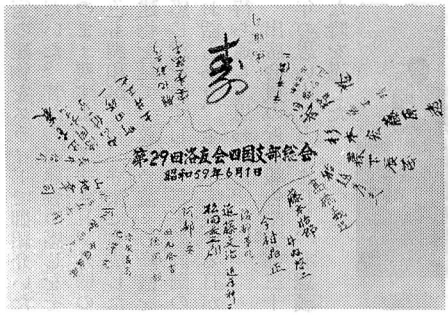
四国支部総会

6月1日（金）高松市内の旅館「新常盤」において、第29回洛友会四国支部総会を開催した。本部からは松田会長、近藤名誉教授、田丸教授の御出席をいただき、支部からは33名の会員が集まった。

総会は、松田先生の Wit にとんだ挨拶に始まり、近藤先生からの名簿処理の機械化のお話、田丸先生からの電気教室近況のお話の後、会務報告、予算案審議、新役員の選出を行ない無事終了した。

引き続き懇親会に入り、先生方との歓談や、久しぶりに顔を合わせた先輩、友人と酒を酌み交しながらの談笑など、楽しいひとときを過した。最後に全員が肩を組み、恒例となった「琵琶湖周航の歌」の合唱で懇親会を終った。

翌日、松田、近藤両先生は愛媛61～64番札を参られ、田村先生は屋島、栗林公園を見学された後、無事京都へお帰りになった。



以下は松田、近藤両先生を御案内した長井先輩の随行記である。（昭56卒　池澤記）

6月2日朝、やや汗ばむような天候のもと、松田先生、近藤先生、御案内役の中川先輩（昭15卒）とともに西条に向って高松を出発した。列車内では、おだやかな瀬戸内海やのどかな田園風景を眺めながら、電気系教室の近況、洛友会会員名簿作成の苦労話など話がはずみ、あっという間に西条に到着した。

西条駅では、安藤先輩が出迎えにこられ西条近辺の紹介をされた後、修験道の根本道場で知られる64番札所前神寺を皮切りに四国八十八個所巡拝に出かけた。この64番前神寺では団体のお遍路さんとかち合い大変な混雑であったが、63番吉祥寺、安産観世音で知られる62番宝寿寺では参拝客も少なく、松田先生がつかれる鐘の音を聞きながら落着いた雰囲気で詣でることができた。最後に61番香園寺に詣でたが、ここはコンクリート建ての超モダンな本堂となっており両先生とも呆気にとられておられた。

その後昼食をすまし高松に戻り、倉野先輩（昭29卒）夫妻と共に両先生をお見送りした。

今回は、先生方の御案内役ということであったが、話に花が咲き私自身十分に楽しませていただきました。（昭54卒　長井記）

新役員

支部長　中川修一郎（昭15）
副支部長　船越　孝夫（昭22）
幹事　高橋　義造（昭30）
　　辻本　巌（昭37）
　　近藤　敬治（昭38）

同窓会便り

十四日会大会

（昭五九・五・一〇―一一）

十四日会（大正十四・十五年卒同窓会）の昭和五十九年大会で、筑波学園都市と東京下町とを見学した。

筑波学園都市では、来年三月から半年間に、約二千万人の参観が予想される「筑波科学万博つくば85」の会場建設中で、開会中はかなり混雑して乗物規制も行われ、会員中に其の時まで自信はないという人もあって、建設中の見学がきまった。（以前見学を希望して故人となった会員もあり、今回の実行委員でこれまで会のために大いに働いて下さった橋本真吉氏もこの準備中に二月九日急逝された。）

さて「筑波学園都市」というのは、そういう名の自治体があるのではない。

東京都の東北約六十粁、茨城県の最南端の筑波・新治・稲敷三郡にまたがって境を接する五町一村の錯綜した境界附近に、昭和三十二年から国の科学技術庁他九省の管轄する一大学、四十四研究設備がこの地に移され、その総面積は東京都環状線内に等しい二八、五〇〇ヘクタール。ほかに県が住宅・工場団地を開発した。「科学万博」用地一〇〇ヘクタールも将来工業団地に転換される。

この土地は筑波山西方、桜川・小貝川・鬼怒川・飯沼川などが、利根川に向って南流する荒地で、洪水のたびに河線は度々変った。未開墾湿地帯に丈の低い松林が点在する間に僅か数ヘクタールの田畑が点在していた。

古く平将門は開拓地争いで乱を起し、南北朝時代に北畠親房は四年間ここで勢力を張って「神皇正統記」を執筆し、高師直に敗れて吉野に赴いた。百五十年位前、最西端飯沼川流域の二十数ケ村が連合して新田数百町歩を開いたが、中央部は最近まで荒地のままであった。明治末の長塚節の「土」は鬼怒川べりのこの附近の農村を描いたものである。この地に東京都にある政府機関を移そうとしたのである。

昭和五十九年五月十日午前十時、国鉄土浦駅に集合（会員十一人、准員十人）、貸切バスで「研究交流センター」を訪ね、松井所長の御説明と「都市案内映画」（二七分）で概略理解、次に遅塚研究官の御案内でセンター内を縦横に走って見学した。（佐々木准員への連絡通知誤記で、インフォメーション・センターで永く待って頂いたのは申訳なかった。）

第一番に工業技術院の地質調査所で、地球生成三八億年の岩石、地球のプレートと地震の原因、地球の地下資源等、気の遠くなるような話から、身近い天然資源の状態を勉強した。

十二時過ぎ松見公園の食堂でこの近くの手久沼の鰻を賞味したのち、松見公園展望台に登って、近く筑波山から、学園都市全体及び遠く関東平野、東京方面などの大展望を楽しんだ。

次に科学万博建設中の地域（一〇〇ヘクタール）を特別許可で、バス見学をした。（昨日、中曽根首相らもタクシーで一周の由）博覧会開催後、この広い土地を歩く苦労が想像された。

次に洞峰公園で太陽熱利用設備と体育館見学し、少憩の後十六時の特急で上野駅に十七時着、四人宛に分れてタクシーを拾って、晩餐会の会場ホテル・オークラに赴いた。

十八時からの記念晩餐会には数日来風邪気味の一本松氏も出席になり、会員十四人、准員十人。記念撮影後、寄せ書。その後歓談二時間、十四日会記録作製を協議して散会した。

第二日（五月十一日）は午前九時、東京駅前集合（会員十人、准員八人）貸切バスで、最近大変化をした東京江東地区下町を見学した。深川芭蕉記念館は生憎休館であったが、特にホールで「芭蕉の生涯」（尾形働氏編）のビデオを観賞、三百年昔の江東地区を偲んだ。震災記念堂で大正九年の震災、昭和十九年の大空襲被害を偲び、向島長命寺に赴いて少憩。むかしの高校対抗短艇競争の面影はなく、桜餅だけは昔の儘であった。下谷竜泉町の一葉記念館に行って、二十四才の若死の天才作家の作品に描かれた九十年前のこの界隈の有様を想像した。そして雷門前ちんや牛肉店で中食（ここへ一本松氏も出席）

ここで約二時間歓談、来年五月二十日頃、卒業六十周年記念の大会を関西で開くことを、関西の方々にお願いした。その後この頃外人も多く散歩する中店を歩いて、観音様にお詣りして、バスで東京駅前に出て解散した。

追記

一、卒業五十周年は昭和五十年十月、京都泉涌寺で物故諸先生及び会員の慰霊法要を営み、東福寺芬陀利院の青柳先生のお墓にお詣りした。

二、昭和五十五年の会合の時は、有志が九条山の鳥養先生のお墓にお参りした。

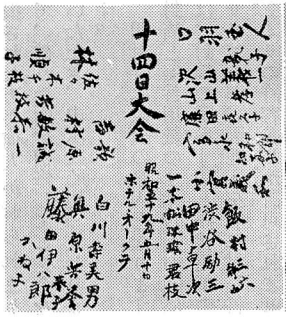
三、卒業後六十年も生き永らえて、師恩・友人愛が胸にせまって感慨無量。そこで晩餐会の席上で一本松氏から、二十五年も続いたこの会のことを、記事にまとめて残したいと御提案があった。

四、乏しい私の日記では昭和三十五年五月八日の会員だけの会合には、九人の先生の御臨席をお願いして、会員三十八人出席、総計四十七人。（現存二十四人）

五、第二回夫人（准員）同伴の時、先生お二人、会員三十五人、准員二十人、総計五十七人出席（現存二十一人）

六、第三回以後、小生病気不参などで、「日記」記事に脱落あり、追跡困難少なからず。資料御所持の方は色々教えて頂きたく、来年五月の会合までに纏めたいと考えています。（五九・五・一三）

（小宮記）



昭和三三年卒 二五周年同窓会

昭和三三年卒業生プラス昭和二九年入学生の二五周年同窓会が、昨年十二月三日に京都嵐山の渡月亭で開催されました。初冬の土曜日の夕方、各地より嵐山に集った

熟年紳士諸氏は、入口でまず喜利カメラマンにより五人一組のスナップ写真をとってもらい、湯につかってくつろいだ後、午後六時より宴会が始まりました。宴には前田、近藤、池上（淳）三先生のご出席をいただき、まず池上先生のご発声で乾杯した後、前田先生と近藤先生のお話があり、同窓会の運営のアドバイスや教室の近況の紹介などをしていただきました。

次いで準備会の報告があり、その中で村田久雄君が昭和五八年春死去されたことが紹介され、全員で冥福を祈りました。その後各人の近況報告があり、新旧、公私にわたる話に花が咲き、にぎやかな一夕を過しました。最後に次回は福島邦彦君を中心に東京グループで三十周年記念会を準備することを決定して、宴を終了しました。

翌朝はゴルフに、京都散策に、仕事に（宿から出張した人もいた）、思い思いに出発しました。なお二十五周年を記念して記念誌が発行されることとなり、本年五月にめでたく発刊となりました。

（田丸記）

関西支部ゴルフコンペ開催のお知らせ

関西支部では、毎年春・秋に各一回ゴルフコンペを開催していまして、本年度も春期分を去る四月二十二日に武庫ノ台G・Cで実施いたしました。

この日は、大学からの先生方七名を含め、総勢二七名のメンバーが、和気あいあいとプレーを楽しんで頂きました。

次回は、九月二十四日武庫ノ台G・Cで開催する予定です。新らたに参加を希望される方には、次回以降の案内状を毎回御送りいたしますので、左記の幹事まで御一報下さるようお願いします。

連絡先　大阪市北区中之島三丁目三―二二　関西電力KK
TEL〇六―四四一―八八二一
企画部　潮崎安弘（内線2101）
〃　三谷鐵男（内線2130）
工務部　加藤有一（内線2618）

（潮崎昭33年卒記）

事務局だより

会報四月号発送時に同封されておりました、会費納入用振替用紙にはコンピュータに入力されている各種情報中の必要事項が自動的に印字されたものが記載されていました。

事務局としましても始めての処理でありますので、不慣れな点が多々ありましたことをおわび申し上げますと共に、気の付きました点を二、三申し述べまして、今後会員各位のご参考に供することと致します。

㈠　会費納入金額について

振替用紙に記載されている金額の内容については、前号においてお知らせ致しましたが、会員の方から〝自分は当年度分を支払っているが未納になっている〟とのおしかりを受けることが間々あります。これはご承知のように会費納入からコンピュータ入力、発送までに最短でも3週間のタイムラグが発生します。従ってこの間に会費を納入された方には、前述のようなミス？が発生しますので、この点ご了承の上、金額を訂正してご送金のほどお願いします。

㈡　振替用紙の破損について

振替用紙を同封しました封筒を開封される際に、誤って用紙を破損された方が何人かおられまして、破れた所を補修してご送金をいただき、申訳なく思っております。

開封時に破損の原因となります封筒と振替用紙のサイズとの関係は、封筒の定形寸法と振替用紙のサイズとが、天地・左右に対し各2ミリの許容差しか許可されません。従って開封される時に、許容差以上に切断されますと用紙が破損します。この点よろしくご賢察方お願いします。（以下次号）

訂　正

四国支部より〝洛友会創立三十年史〟の記事（52頁）中、四国支部長の項につき左記のとおり訂正の申し入れがありました。

記

誤　昭42～50　宮地冬樹
正　昭42～44　宮地冬樹
　　昭45～50　阿部　要

編集後記

男性的な今年の梅雨も明けて、京都も祇園祭の季節を迎えました。小生も事務局の大役を引受けてやっと三ケ月、ややその全容が分かりかけてきました。今後ともよろしくお願いします。

5・6月は、本部を始め全国各支部の総会シーズンでもある関係上7月号は記事が輻輳し関係者としまして、うれしい悲鳴をあげています。

限られた紙面を有効にしかもできるだけ多くの記事を掲載したいのですが、残念ながら前号予告の三美具、シルクロードの旅、こぼれ話は、次号廻しとなりました。ご寛容のほどを。

（竹村記）

訃　報

大7	間崎　竜夫	59・6・23
講大8	平井喜一郎	59・3・9
講大8	近藤勇次郎	59・5・9
講大9	内藤常三郎	59・3・18
大11	島居金次郎	59・2・6
大12	土方鹿之助	59・4・5
大13	河津吉兵衛	59・2・2
大13	中沢幸次郎	59・3・6
講大15	久保　朝一	58・8・22
講昭4	藤井　武雄	58・9・12
講昭5	小野　修一	59・1・8
昭6	進藤　陽吉	58・11・11
講昭7	村松　俊雄	58・6・26
講昭8	奥田英太郎	59・4・10
昭9	西尾　信行	58・8・29
昭15	古賀　七郎	59・2・26
講昭15	亀田　与一	59・5・14
講昭15	中原　嘉郎	59・6・27
昭16	西　助九郎	59・2・10
昭23	太田　勇	58・7
昭33	村田　久雄	58・4
昭34	小野　和明	58・9・16

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。